

題名

Humpty Dumpty

Humpty Dumpty was sitting on a high wall.

“How exactly like an egg he is!” said Alice.

“It is VERY provoking to be called an egg—VERY!” said Humpty Dumpty after a long silence.

“I only said you looked like an egg, Sir,” Alice explained politely. “And some eggs are very pretty.”

“Some people,” said Humpty Dumpty, “have no more sense than a baby!”

Alice did not know what to say. She softly repeated:

“Humpty Dumpty sat on a wall:

Humpty Dumpty had a great fall.

All the King’s horses and all the King’s men

Couldn’t put Humpty Dumpty together again.”

“Don’t stand there talking to yourself,” Humpty Dumpty said. “Tell me your name and your business.”

“My name is Alice, but—”

“It’s a silly enough name!” Humpty Dumpty interrupted. “What does it mean?”

“Must a name mean something?” Alice asked.

“Of course it must,” said Humpty Dumpty with a laugh. “MY name matches my shape—and it is a very handsome shape too!”

参考資料 『ハンプティ・ダンプティ』

ハンプティ・ダンプティは高いへいの上に座っていた。

「まあ、まるでたまごみたい！」とアリスは言った。

「たまごなんてよばれるのは、まったくふゆかいだ——ほんとうに！」と、ハンプティ・ダンプティは長いちんもくのあとで言った。

「たまごだと言ったわけじゃないの。」

アリスはていねいにせつめいした。

「たまごみたいだって言っただけ。しかも、きれいなたまごもあるでしょう？」

「世の中にはね、」とハンプティ・ダンプティは言った。

「赤んぼうほどのふんべつもない人間がいるんだよ！」

アリスは何と答えていいかわからなかった。

そこで小さな声で、こんな歌をくり返した。

「ハンプティ・ダンプティ へいの上
ハンプティ・ダンプティ 落っこちた
王さまの馬も 家来たちも
ハンプティ・ダンプティを もとには戻せなかった」

「そんなふうに、ぶつぶつひとり言を言うんじゃない。」

ハンプティ・ダンプティは初めてアリスの方を見て言った。

「名前と用事を言いたまえ。」

「わたしの名前はアリス。でも——」

「ずいぶん間のぬけた名前だね！」

ハンプティ・ダンプティはさえぎった。

「その名前にはどんな意味があるんだい？」

「名前には、意味がなくちゃいけないの？」

アリスは不思議そうに聞いた。

「もちろんだとも。」

ハンプティ・ダンプティは短く笑った。

「ぼくの名前は、ぼくの形そのものを表している。そして、それはなかなか立派な形なんだよ！」